



森ボラ 通信

森の守護神

第52号 2006年9月20日発行

N P O 法 人 北 海 道 森 林 ボ ラ ン テ ィ ア 協 会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 Fax:241-8308

E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp

URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■トピックス

◆ ホタル生息環境保全のための澄川の木道計画

創立初年度以来活動をつづけている澄川都市環境緑地で規模の大きなホタルの繁殖が確認されたことで、ホタルの生息環境を保全するために沢を渉る作業道を木道化することにしました。渡渉ヶ所は3ヶ所です。建設資材費用を札幌市シニアチャレンジ制度に助成申請しました。採用の暁には次年度事業に組み込みます。(高野 記)

◆ 宮脇昭講演会

8月26日、札幌商工会議所大ホールにて横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏の講演会を聴講しました。「本物の森を作ろう」をコンセプトに、札幌市と毎日新聞社がこの9月20日に手稲区前田で宮脇方式による森づくりを始めます。まずは郷土樹5種類(イタヤカエデ、カンワ、カスミザクラ、トチノキ、ミズナラ)のポット苗を稲藁でマルチするようです。講演会場はほぼ満席、関心の高さがよくわかりました。(高野 記)



◆ 支笏湖「復興の森づくり」



セブンイレブンからは過去2度の助成をうけていますので、参加はご恩返しでもあります。9月1日現地説明会に参加、「特別にお願いがあります」ということで、面積の大きな区画(約1.5ha、植栽本数1430本)を割り当てられました。しかし、現場は大型機械で耕運されたまるで畑のような地拵えがなされていて、片手で持てる道具で子供でも植苗できる状態でした。列幅2m、行間隔1.25mと指定されています。指導者はなし。当協会の実績と実力を評価されてのことだと前向きにとらえましょう。モーラップでキャンプを楽しむことも織り込んでいますが、日帰り参加も歓迎します。現地に駐車場もあります。9月23日午前8時、地下鉄真駒内駅発です。孫連れも歓迎。(高野 記)

◆ 例会

9月6日リンケージプラザで会員例会が開かれました。例会は会員のフリートーキングによる会議ですが今回はそれに先立ちビデオによる勉強会が行われました。

1 天売焼尻の水源の森

7月に一泊旅行できなかつた会員のために、島が植林で水不足が解消したビデオを見ました。

2 熊との共生

できたばかりの教育ビデオで熊の生態、人と熊との共生について学びました。

3 会議

澄川活動地の木道設置計画、支笏湖の台風被害地 植林、藻岩国有林の次年度活動方針、木工製品のフリマ参加呼びかけ等につき討議されました。(酒井 記)

◆野幌のブナ 千古園(野幌)を訪ねて

9月13日の野幌森林公園での活動の後、和田さんの案内で野幌森林公園の北東端にある「千古園」を訪れました。ここは、北越殖民社の二代目社長 関谷孫左衛門の屋敷跡の一部で、大正7年(1918年)に「留魂碑」や茶室が建てられ千古園と名付けられています。



「北越殖民社」は、開拓を目的として明治19年に新潟で設立され同23年(1890年)に400名を越える入植者が東西野幌で開拓を始め、農地解放がおこなわれた昭和21年まで続いた民間の開拓者で、江別の発展におおいに貢献しています(和田さんの資料から)。

駐車場から千古園に入っすぐの所に大きなキタコブシの木がありました。樹高12m、胸高直径98cm、樹齢180年と書かれていましたがこの木は太い幹が途中で折れ、横枝が太くなり、この部分は丸木で支えられ樹高も20m位はありそうな程立派な木です。その横に今回の目的である「ブナ」がありました、一見、胸高直径200cm

近くもありそうな大木ですが良く見ると5本の木の合体状態です。おそらく非常に近い間隔(50~60cm)で円状に植えたものが大きくなるのに従って隣り同士がくっついた状態のまま成長したものと思われます。表示板には樹高25m、胸高直径120cm、樹齢120年とありますので合体状態の中で一番太い木の胸高直径120cmを示しているものと思われます。その他には、イチイ(樹齢200年)、ヤマモミジ、シラカバ、ハンノキ、サワラなど樹齢100年を越しているものがありますので現在の新潟県から入植した人達が元々北海道にあった木と共に故郷を偲んでブナ(イヌブナではない)やサワラなどを植えたものでしょう。それにしてもブナも非常に大きくなっていますので現在ブナの北限は黒松内ですが石狩地方でも気候的には充分育つことが実証されていることとなります。但し、このブナは実を付けているのでしょうか？ 大木以外のブナが見当たらないのが少し気になりました。

今回行かれなかった方も一度訪れる価値はあると思います。もうすぐ黄葉しますのでこの頃も良いですし、春の芽吹きも季節も素敵です。(荻田 記)



◆ 芸術の森「アートマーケット」盛況裏に終了

9月17日 風もなくお天気も上々の青空の下で、芸術の森で今年2回目のアートマーケットの出店です。決められたおよそ3m四方の中で、森林ボランティアの看板を一番前の真ん中に飾り、ワインラック、文鎮、状差等などの品物を並べお客様をお待ちします。



これより10日ほど前にアップル山荘の虎谷さんから「アップル山荘で草木染の展示会を行うので、ボランティアの木工作品も一緒に並べて即売したい」とうれしい電話があり、9月7日~12日迄の6日間、品物を置いて戴きお世話になりました。その結果2万円近くも売り上げていただき、虎谷さんに深く感謝すると共に、その営業力に驚かされました。さて、このため本番のアートマーケットに品物が少々不足したため木工ボランティアの方々が熱心に製作に取りくんで立派な品物が揃いました。腕がますます上達したと言うことです。感謝感激です。

お蔭様で、フリーマーケットの売り上げは17800円となり、7月に1回目のフリーマーケットの売り上げ

と、アップル山荘と自宅販売分を合わせますと総計5万円を少し超えました。これも皆様の努力とご協力のお陰です。有難うございました。(杉本(則) 記)

■今月の幹事会

9月 11日(月)出席者：荻田、酒井、杉本、高野、津金、西野、棟方、和田

- 1 トラベルプラン進行報告
- 2 公園指定管理→今造園とのジョイントで挑戦(酒井、西野)
- 3 リンゴ園調整窓口→賛助会費、寄付金の確認と請求(山中)
- 4 北海道神宮との調整→側域林の整備方針、巨木調査とGPS購入(荻田)
- 5 10月 11月作業計画→10月 4および5日神宮で補植用トドマツ山引き苗床整備
10月 13日有明第二でトドマツ苗の山引き目標 200本
10月 27日澄川 宮の森中学校体験学習対応
11月 1日 西野第二の道つけ
11月 2日 リンゴの木運搬→澄川保管
- 6 セブンイレブン支笏湖植樹協力 9月 23日 日帰り参加者歓迎 5280林班 1430本
- 7 宮の森中学校対応→現地まで公共交通機関で来てもらうように調整(高野)
当日のカリキュラム立案(酒井)
- 8 澄川木道費用申請→札幌市シニアチャレンジ制度に申請中
- 9 収益事業をホームページでPRする→ホームページメンテの習熟(柴田、西野、高野)
- 10 森ボラ 9月号記事→例会(酒井)、野幌のブナ(荻田)、木工とアートマーケット(杉本則)
- 11 理事会調整→11月 21日 火曜日 16時～

会員の動向

入会者：大崎正勝

■おしらせ

◆ セブンイレブン支笏湖植樹協力のキャンプのお知らせ

- 植樹日 9月 23日(土 秋分の日)および 24日(日)
Sub 真駒内駅 8:00 出発
当日昼弁持参のこと、雨天(雨具持参) 決行
- 植樹場所 支笏湖国有林 5280林班 38ブロック トドマツ、アカエゾマツを 1430本植栽
- 宿泊場所 支笏湖モーラップキャンプ場
常設テント(4人用×5張り)
- 費用 2500円～3000円(見込み)
- 申込 事務局(241-8155)、山中(764-1646)



◆ オイスカ植樹 第10回北海道山・林SUN「こどもの森」計画

- 植樹日 10月 21日(土)
- 集合場所 北電ビル南側 8:00
- 植樹場所 当別町青山中央 道民の森
- 参加費 大人 1000円 高大生 500円、小中学生無料
- 申込 オイスカ北海道支部 011-222-4248、FAX011-222-4288

◆ 宮の森中学校訪問学習受け入れ

- 日時 10月 27日
- 場所 澄川都市環境緑地
- 内容 森林ボランティア体験
- 生徒は地下鉄およびバスで豊平清掃事務所バス停まで来てもらいます。

■活動履歴

活動日	場所	参加人数	活動内容
9/17	札幌芸術の森	6	木工フリーマーケット
9/16	杉本邸	14	フリーマーケット出店準備
9/15	北海道神宮	8	側域林整備(ニセアカシヤ除去)
9/13	野幌国有林	18	補植、ブナ林観察
9/11	金市館	8	幹事会
9/8	有明第二	4	補植、標識竹採集(野幌用)
9/7	有明第二	雨天中止	地拵え、標識竹採集(野幌用)
9/6	リンテージプラザ	17	会員例会
9/5	杉本邸	16	木工、フリーマーケット出店準備
9/4	杉本邸	15	木工、フリーマーケット出店準備
9/1	支笏湖国有林	3	セブンイレブン「復興の森づくり」
8/31	藻岩国有林	8	間伐
8/30	藻岩国有林	2	間伐
8/28	杉本邸	10	木工
8/24	澄川	10	除伐、木道調査
8/23	澄川	13	除伐
リンゴ園	9/1,5,8,12,15,19の6回、葉もぎ作業		

■ひとこま

◆ スズメバチに注意しましょう

この夏は異常高温が続き、酷暑の中汗みずくの作業をしました。その折々にハチの巣に出会いましたが、その頻度が例年に比べ多いと感じていました。8月24日の澄川活動日、沢を渡渉するルート調査の折、その線上にスズメバチの巣がありました。もちろん湯澤さんに除去していただきました。これからは危険な季節になります。各自くれぐれもご注意ください。(高野 記)



◆ 穴のない巣箱

有明活動地のエゾマツの森は台風で折れて穴地となっていました。あの日(嵐の中を中国植林に出發したあの日)からちょうど2年経った9月8日植林地の補植に訪れました。棟方さんの育てたミズナラ、イタヤカエデ、ヤチダモ、カツラ、ハルニレを補植し、天然下種地にもシラカンバを植えました。

冬場に取り付けた巣箱は殆んどしっかりしていましたがひとつ穴のない巣箱がありました。これは鳥が入ってこないようにスズメバチが入り口を塗りこめた蜂の巣でした。テープを貼る

ジョーク案もでましたがよくよく考えれば人との住み分けになっているのかもしれない。

9月6日の例会でみた熊のビデオの住み分けに似ています。今年は蜂の発生が多くもう3名の会員がさされました。作業内容の変更も含め安全な森林活動をしましょう。(酒井 記)

他にも、昨年の二青会との植樹記念にエゾヤマザクラを植え標柱を建てた場所のホオノキの幹にかけた巣箱にもスズメバチが住みついております。